

令和2年度

# 学校評価総括評価表

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を育成する (教務課, 進路・情報課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
確かな学力を育成する。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実  (分掌レベル) 1) 言語活動の充実を図りながら、指導方法を工夫・改善し、わかる授業、力をつける授業を実践する。	評価指標  1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人5回以上他の教員の授業を参観する。  ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を80%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	評価指標の達成度  1) ① 平常時の相互授業参観に加え、初任者研修をはじめとする各種研修会の研究授業、またSSH事業における公開授業を参観することにより、ほぼすべての教員が他の教員の授業を約5回参観することができた。  ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価が97.00%であった。	評価  B	総合評価 (評定)  B  (所見) 教員一人ひとりが授業力向上に対して、高い意識を持ち、積極的に取り組むことができている。  また、今年度は特に研究授業について可能な限り、同一教科の教員が参観できるよう時間割の配慮した。 授業評価による生徒の意見を反映させながら、教員一人ひとりがわかりやすい授業展開ができるよう、積極的に取り組んでいる。特に今年度は休業中にオンライン授業を行ったため、テレビ会議システムや学習活動支援サービスに関する校内研修も行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すべての教員が5回以上授業参観できるような働きかけや、各種研修会の日程調整を行う。</li> <li>○ 授業力向上にむけ、授業評価の実施方法や内容について検討する。教員一人ひとりが積極的に自己研修に取り組めるような働きかけをする。オンライン授業や動画配信授業についてのノウハウを蓄積し、お互いに共有することによりわかりやすい授業を実施する。</li> <li>○ 難関大、ブロック大合格者を継続的に出していくには、生徒の状況を見て、やる気を持たせられるような声かけや、オープン模試や校外での難関大、ブロック大進学希望者との交流会への積極的参加を促すなど、仕掛けを進路・情報課と担任とで連携してやっていかねばならない。</li> <li>○ 生徒の基礎基本の定着につながるよう、小テストをしたり課題をしたりするなど教科、時期により工夫が必要である。</li> <li>○ SSH事業で様々な活動を行っているので、しっかりと記録をできるように指導を続ける。</li> <li>○ 補習内容を生徒にとって魅力のあるものになるように検討していく必要がある。平時の授業展開も考慮に入れ、習熟度別の授業展開や模試等の問題別の講義等の開設を検討し、受動的な受講ではなく、主体的な受講となるよう考慮する。</li> <li>○ 実施方法を改善して、教員自らもより積極的に関わることができ、Point Up Seminarの質の向上につながるよう工夫する必要がある。</li> </ul>
	2) SSH事業のもと、理数教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。	2) ① 難関大学、ブロック大(岡山大・広島大等)の合格者をだす。  ② 1・2年次に対して難関大・ブロック大進学希望者集会を実施する。	2) ① ブロック大以上の合格者はいなかった。既卒生で慶応大1名。  ② 多くの学校行事等やコロナウイルスの影響があり、希望者集会を実施できなかった。	C	本年度は、難関大、ブロック大以上の合格者がいなかった。入試改革に対応し、従来の指導を変えていく必要がある。新しい評価や入試システムを意識した教育活動を進めなければならない。	
	3) 学習習慣の定着と活動記録の蓄積等の支援をする。「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。	3) ① 「朝学」の10分間を活用し、各教科の小テストの実施を計画的に行う。  ② 学校内外の取組について、「富西システム手帳」に定期的に記入させる。	3) ① 英語、数学、国語において小テストを計画的に実施した。  ② 講演会等があれば、システム手帳を持って行き利用するよう呼びかけた。	B	生徒のモチベーションを保つことが難しかった。意欲をかき立てる何かが必要である。  行事等があれば自ら準備する習慣を身につけさせる必要がある。	
	4) 補習授業を充実させる。	4) ① 補習では、大学入学共通テストで全国平均点以上の獲得と志望校に合格する学力をつけることを目指す。早朝補習と8限目補習、大学入学共通テスト後に国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。(3年次)  ② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で12回実施する。(1・2年次)	4) ① 早朝補習、8限目補習は、6月以降計画通り実施した。大学入学共通テスト後は、国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を19日間進路別クラス・個別対応で実施した。3年次の補習については、早朝補習で、生徒の進路希望の変更に対応できていた。本校受験者の平均点が大学入学共通テストで全国平均点を上回った科目はなかった。  ② Point Up Seminarと名称を改めた土曜日補習は、9月から2月までの期間、1・2年次希望者を対象に12回実施した。生徒の満足度86.4%に対し教員の満足度80%であった。	B	3年次の早朝補習は希望者対象で、実施回数も多く、習熟別・分野別にクラス分けしているため進路決定後の学力・意欲の向上に結びつけることができると考えられる。本年度は最後まで、多くの生徒が参加することができた。大学入学共通テストの校内平均点が全国平均点に届く科目がなかった。  1・2年次のPoint Up Seminar(土曜補習)は、募集前の内容提示に効果があったのか参加者の満足度は高い。しかし教員の満足度がやや低いのは負担が大きいためかと思われる。実施方法の再考が必要である。	

	<p>③ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次)</p> <p>④ 外部より講師を招き特別授業を実施する。</p>	<p>③ 長期休業中における補習の出席率は、 夏季 1年次：98.9%(96.5%) 2年次：97.9%(95.1%) 冬季 1年次：97.3%(94.9%) 2年次：94.5%(92.3%) 1・2年次の生徒の結果を平均して満足度は平均72.9%(72.1%)、教員の満足度90.9%(92.3%)と差が大きい。 ( )内は昨年度</p> <p>④ コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。</p>	<p>長期休業中の補習は普段の授業内容を補足・充実させるもので出席率も高く、教員の満足度も高いが生徒の満足度が低い。生徒の意欲をいかに引き立てることが課題である。</p>	<p>○ 補習内容を生徒にとって魅力のあるものになるように検討していく必要がある。平時の授業展開も考慮に入れ、習熟度別の授業展開や模試等の問題別の講義等の開設を検討し、受動的な受講ではなく、主体的な受講となるよう考えたい。</p>
<p>5) SSH事業のもと、アクティブラーニングやICT活用等、主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人一人が自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。</p>	<p>5) ① システム手帳を活用させる。</p> <p>② オープンキャンパスへの参加を促す。各年次60%程度の参加を目標とする。</p> <p>③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、阿南市が主催する阪大連携事業、牟岐町で行われるサマースクール、京大連携事業等に積極的に参加させる。</p> <p>④ Innovation.Lab.室(進路室隣)を面接等に利用し有効に活用する。</p>	<p>5) ① 富西システム手帳を用いて学習時間や生活時間の管理を行うことが学力の向上に役立っていると考えられる生徒は 1年次：45.8%(52.2%) 2年次：43.9%(53.6%) 3年次：57.7%(47%) 教員が89.1%(75.0%)に比べて生徒平均では49.2%(50.8%)となっている。( )は昨年度。 ポートフォリオ作成のため、システム手帳に集会や講演の記録をする指導を行った。</p> <p>② コロナウイルスの影響で現地へのオープンキャンパス参加は5%であった。多数の者がWEBオープンキャンパスに参加した。 昨年度は 1年次：62.7% 2年次：75.0% 3年次：60.5% の参加率であった。</p> <p>③ 徳島県や県内外の大学、大学と地方自治体との連携事業や講座などを案内した。生徒が興味関心を持つ分野や進路につながる内容の行事等があれば教員から参加を勧めるなどして、積極的に行動する姿勢が多数見られた。今年度はZoomを利用したものが多数あった。</p> <p>④ 校内での部屋の認知度も上がり、日々多岐に渡って有効に活用されている。</p>	<p>富西システム手帳の記録等をもっと継続的にする仕組み作りが必要である。システム手帳の活用について、教員と生徒との満足度が大きく離れていることに課題がみられる。</p> <p>B</p> <p>今年度のオープンキャンパス参加については、コロナウイルスの影響を受け、WEBオープンキャンパスに参加する者が多数であった。</p> <p>大学や地方自治体主催の講座等、校外の学習の機会を積極的に活用する生徒たちが増えてきた。</p>	<p>○ システム手帳の活用が十分とはいえない。集会やホームルームでの継続した指導だけでなく、学校行事の中に記入週間を設け、記録する習慣づけが必要である。特に3年次の受験期に志望理由・自己アピールの作成等の活用することを意識づける。 また、入試改革により、生徒個人のポートフォリオ作成の必要性や、調査書への記載内容の増加から、生徒個人の活動を記録する重要性があるだけに、ただ記録するだけでなく、活動へのアプローチの仕方、活動後の学び、今後への展望などを書き残す指導をしていく。</p> <p>○ 来年度も状況によってはWEBオープンキャンパスへの参加を促すことになる可能性が高い。臨機応変に対応する必要がある。</p> <p>○ こまめな案内や参加指導をすることで進路実現に向けての意欲をさらに向上させたい。</p>
<p>6) 各教科等における言語活動を充実させる。</p>	<p>6) ① 各年次で小論文模試を実施する。</p> <p>② グループディスカッションや面接指導・小論文に対する入試対策を実施する。</p> <p>③ 仮志望理由書を2年次に書かせる。自己分析から自分の進路について考えさせ、表現させる。</p>	<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では2回の小論文模試を実施した。コロナウイルスの影響で予定より1回減であった。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は担当者を決定して計画的に行った。</p> <p>③ 2学期後半より自己分析に取り組みせ、その内容も踏まえ、仮ではあるが志望理由書を書かせた。</p>	<p>共通テスト後の実施は受験者少数で時期を変更する必要がある。</p> <p>B</p> <p>多くの教職員の方々に協力していただいた。来年度も多くの先生方に関わっていただきたい。 3年次の準備として必要である。</p>	<p>○ 共通テスト後に実施していた小論文模試を2学期末テスト後に実施し、1月中旬までに小論文模試の結果がわかるようにし、担任の指導をやりやすくする。</p> <p>○ 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導に素早く取りかかるためにシステムの変更をする。</p> <p>○ どのような入試に必要なのかを説明し、生徒一人ひとりに必要であることを認識させる。</p>
	<p>活動計画</p> <p>1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人5回以上他の教員の授業を参観し、優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ① 教科会や授業研究会のなかで、あるいは個別に、優れた点を授業者に伝えたり、参観者が共有したりすることができた。また、改善すべき点は授業者に助言することができ、少しずつではあるが、教員一人ひとりの授業力向上に役立った。</p>		

<p>② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。</p>	<p>② 肯定的な意見は昨年度に比べて、約1.0%向上した。各自が授業評価の結果を分析するとともに、教科会等で分析、検討を行い、確かな学力の育成につながる授業展開ができるよう努力することができた。臨時休校中にはできるだけ生徒の学習習慣を持続させるため、課題を郵送したり、動画での遠隔授業を行ったりした。</p>
<p>2) ① 英語・数学の授業を習熟度別を実施する。</p> <p>② 教員が入試問題を分析し、生徒のレベルに応じた授業展開が実施できるようにするために、長期休業中等を利用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。</p> <p>③ 1年次は秋に、2年次は夏頃に難関・ブロック大進学希望者集会を実施する。</p>	<p>2) ① 英語・数学・国語では、生徒の進路や習熟度に応じた授業を実施した。</p> <p>② 長期休業中を利用して、専門教科の研究セミナーや入試問題研究会、授業研修会等に参加した教員(学校を通して)は年間を通じていなかった。</p> <p>③ 多くの学校行事等やコロナウイルスの影響があり、希望者集会を実施できなかった。</p>
<p>3) ・各教科と連携して小テスト等の実施計画を立て、生徒に周知する。 ・学校行事の後や、運動部・文化部の大会等の後日に「朝学」での記入日を設け、「富西システム手帳」を配布し、簡単な記録をさせる。</p>	<p>3) ・「朝学」の中で計画を立て、英語、数学、国語の小テストを実施した。「朝学」が基礎学力の補強と学習習慣の定着につながっていると考える。 生徒78%(73.8%)、保護者87.7%(89.5%)、教員80%(73.1%)と満足度は高い。 ・計画的な記入日は設けなかったが、講演会等があれば、システム手帳を持って行き利用するよう呼びかけた。</p>
<p>4) ① ・早朝補習は英数国からの2教科選択制で2クールに分けて59回実施する。 ・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。 ・国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。</p> <p>② 土曜日補習として、年間を通してテーマを絞った内容を提示して希望者を募集する。英数国から希望する教科を選択させて実施する。</p> <p>③ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。</p> <p>④ 鳥取・教育委員会の福島卓也氏を招聘して特別授業を実施する。</p> <p>5) ① 年次集会のメモや日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。文化祭を通じてシステム手帳の活用啓発を行う。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかり考えさせる。</p>	<p>4) ① ・早朝補習は、英数国から選択が可能である。コロナウイルスの影響で早朝補習のスタートが6月からとなり、年間30分×44回を希望者対象に実施した。 今年度 1クール18回 延べ377名 2クール26回 延べ75名 昨年度 1クール13回 延べ206名 2クール11回 延べ198名 3クール15回 延べ220名 4クール24回 延べ180名 ・8限目補習は、1・2学期の火水木の放課後に希望者を対象に理社の科目に分かれ39日実施した。 ・国公立大学の2次・私大対策補習は大学入学共通テスト後19日間クラス・個別対応で進路希望に応じた補習を実施した。</p> <p>② 「Point Up Seminar」(土曜日補習)を実施している。参加者数は129(119)名。出席率は、1年次において英語61.0%(77.2%)、数学60.0%(79.4%)、国語61.8%(71.9%)、2年次では英語71.4%(73.8%)、数学79.8%(80.7%)、国語69.8%(76.1%)であった。「Point Up Seminar」(土曜日補習)の参加者を募集する際に補習の目的と内容について明示して案内した。( )内は昨年度</p> <p>③ 1・2年次の長期休業中補習については、英数国の3教科で夏季5日間、冬季4日間実施した。3年次の補習については、早朝補習、8限目補習、2次私大対策補習等を生徒の進学先に応じて実施した。</p> <p>④ コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。</p> <p>5) ① 年次集会や講演会等のメモや日々の学習の記録にシステム手帳の活用を促している。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパス・体験入学に関する情報を随時提供し、タイムリーな情報が行き渡るように掲示物等に配慮した。集会では進路を考える上で、情報を入手することと自分から進んで行動することの重要性を伝えた。</p>

	<p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーや阿南市主催の阪大連携事業や、サマースクール、京大連携事業等など積極的に参加するようによびかける。</p> <p>④ Innovation.Lab.室（進路室隣）を進路・情報課に関わる活動に限らず、部活動や各小規模な説明会等に活用してもらえるように学校全体に働きかける。</p>	<p>③ 県主催のネクストリーダー育成プログラムに2年次生10名が通年で参加、次年度に向けて1年次生も3名が登録し参加を開始した。大正大学地域創生学部生との「地域創生に関するワークショップ」に20名が参加した。</p> <p>④ 生徒との面談、少人数補習、大学生との交流会、集団討論や個別面接などの受験指導など日々休みなく有効に活用できている。</p>		
	<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回小論文模試を計画し、自分の考えをまとめ整理し、人に伝える力を養う。</p> <p>② 学校推薦型選抜や一般選抜でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路・情報課でとりまとめる。</p> <p>③ 志望理由書添削キットを利用し、自己分析から自分の適性等を考え、文章表現させる。</p>	<p>6) ① 1・2年次はホームルームの授業を活用し、3年次は希望者を対象に小論文模試を2回実施し、将来の進路実現に備える力を付けた。</p> <p>② 推薦入試や一般入試の面接やグループディスカッションの指導は、生徒本人から申し出をさせ、全年次の教職員に協力をお願いして担当者を決定し実施した。</p> <p>③ 本年度は、ホームルーム等で大学調べ、自己分析についての指導期間を経て、志望理由書添削キットへ記入を進めた。</p>		

## ◎ 2 生活指導の充実を図る（生徒指導課、教育相談課）

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価			総合評価(評定)
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実	評価指標			B	(評定)  B	
	(分掌レベル) 1) 基本的な生活習慣の育成に努める。	1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 遅刻者を前年度より10%以上減少させる。 ③ 朝学習遅刻指導を強化する。	1) ① 毎月の全校集会での頭髪・服装検査は実施できなかったが、常時指導や学年次単位の指導で違反者は少なくなった。 ② 全年次合計で13%減少した。 ③ 毎朝、朝学遅刻指導を実施し、巡回指導を行った。	B			(所見) 評価指標関連については不十分な部分があった。
	2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。	2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)	2) ① 携帯電話安全教室は実施できなかったため、HR活動等で啓発に努めた。 ② 重大事故は発生しなかったが、主に自転車接触等の事故は11件発生した。(昨年度9件)から微増した。	B			自転車による交通事故が依然として多い傾向にある。 安全で安心できる学校生活並びに登下校ができるよう交通マナーやルールの遵守について指導をしていきたい。事故や問題行動に対しては教職員の協力体制により、管理職や関係教員・関係機関と連携を図り、迅速に対応できた。さらに積極的な生徒指導に心がける。
	3) 生徒一人ひとりを大切にしたい指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。	3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。 ② 道徳教育用教材の活用を推進する。	3) ① 予定通り個人面接を実施した。生徒理解や積極的な生徒指導・いじめの実態把握や防止に繋がった。 ② 道徳教材の活用については、改善の余地があった。	B			
	4) いじめの早期発見、早期対応に努め、適切な指導を図る。	4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で教育相談課、人権教育課等と連携しいじめ防止指導を行う。 ② 学校いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。	4) ① 集会での生徒への啓発、防止指導を行った。他の課等との連携を徐々に深めることができた。 ② 各年次や担任と連携を図り、取り組むことができた。 ③ アンケートから生徒の実態を把握できた。 ④ 4回の担任面接、2回の生徒指導課の特別面接を通じて実態を確認し、意識の高揚が図れた。	B			
5) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談の体制を整え充実させる。	5) ① 相談室を必要に応じて開放する。 ② 教育相談研修会を年間4回実施する。	6) ① 別室利用だけでなく昼休みも開放し、継続利用する生徒が1名いた。 ② 1学期1回、2学期2回、3学期1回の計4回実施した。	A				

活動計画	活動計画の実施状況
1) ① 頭髪・服装検査（毎月）を実施する。 ② 毎週末、遅刻指導を実施する。 ③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。	1) ① 毎月の全校集会は実施できなかったが、年次集会時に頭髪・服装検査を実施した。 ② 毎週末、遅刻指導を個別に実施した。 ③ 毎日、朝学習遅刻指導を実施した。
2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。 ② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。 ③ 交通マナーアップ活動（生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底）を実施する。 ④ 自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。（年2回） ⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。 ⑥ 原付免許取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。	2) ① 11月に薬物乱用防止教室を実施した。4月の携帯電話安全教室は実施できなかった。 ② 4月の交通マナーアップ講話は実施できなかったため、年次集会で啓発に努めた。 ③ 生徒会・全部活動が輪番で交通マナーアップ活動（あいさつ運動・駐輪場での整頓・施錠の呼びかけ）を実施した。 ④ 5・9月に点検週間を設け自転車・原付の整備点検を実施した。 ⑤ 毎月、学校安全の日に街頭通学指導（8:10～8:30）を実施し、月～木曜日に富西前交差点で通学指導（8:10～8:30）を実施した。 ⑥ 7月に阿南自動車学校で原付免許取得者実技講習会を実施した。
3) ① 面接週間を4回、特別面接週間（6・10月）2回、三者面談を1回実施する。 ② 年次会で情報交換を行う。（随時）	3) ① 5・7・9・1月に担任による面接週間、6・10月に生徒指導課による特別面接を実施した。夏期休業中に三者面談を実施した。 ② 各年次会で情報交換を実施した。
4) ① 年次集会や全校集会を行う。教育相談課、人権教育課等と連携を図る。 ② すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図る。 ③ 年間3回学校生活アンケート（7・11・3月）を行う。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接を行う。	4) ① 必要に応じ教育相談課や人権教育課と連携した。 ② 担任、年次主任及び管理職と連携し、委員会や会議の中で連携し指導を決定した。 ③ いじめについて年間3回のアンケートを実施した。 ④ 年間4回の面接、2回の特別面接の中でいじめについての聞き取りや指導を取り入れた。
5) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。 ② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。	5) ① 13名の生徒と2名の保護者の面談がスクールカウンセラーによって実施された。 ② 年間4回の研修会の他に、個別の相談会が関係する先生ごとに実施された。

○ スクールカウンセラーの常駐が望ましい。予算的に困難であればせめて加配時間数を増やすことが望ましい。

### ◎ 3 豊かな人間性と社会性を培う（特別活動課，人権教育課，総務・図書課，国際・企画課，SSH課）

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
豊かな人間性と社会性を培う。	(全校レベル) I) 特別活動の充実 II) 人権教育の充実 III) 読書活動の充実 IV) 国際理解教育の充実  (分掌レベル) 1) 部活動、生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ、主体性や協同の精神、愛校心を育てる。  2) 学校行事や部活動等とおして、調和のとれた人間性を育成する。	<b>評価指標</b> 1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ② 各種研修会を年間2回実施する。 ③ 年間を通し生徒会、部活動生徒により校門前で挨拶運動を15分間実施する。雨天時は昇降口で行う。 2) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。 ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度は80%以上とする。	<b>評価</b> 評価指標の達成度 1) ① 休業明けには部活動における感染防止対策などを話し合う機会を設け、実施できた。 ② 密を防ぐため参加人数を減らし実施した。 ③ 今年度から各部の人数を10名程度として実施した。 2) ① 感染防止対策として非公開で実施。 ② 例年に比べ規模の縮小や多くの制限の中の実施であったが、生徒は積極的に取り組み実施できた。	<b>総合評価</b> (評定)  B  (所見) 部活動に対する満足度は生徒、保護者とも90%を超える肯定的評価を得ており、その運営には各顧問の尽力がうかがえる。学校祭を含めた学校行事が感染症の影響を受け、縮小、中止を余儀なくされたが、アンケートでは90%を超える肯定的意見を得ている。	新聞を使った感想文に参加できていないことが残念である。SAの活動などで新聞社の方が来て行うものもあるのだから、ぜひ参加してほしい。 図書館での新刊の陳列の仕方は工夫されていてよい。小説などの読みやすいものから読書習慣をつけてほしい。デジタルの時代であるが、紙の本の大切さもある。生徒の学力の伸びには本を読んで、読解力があるかどうかによる。共通テスト対策としても、読書習慣や本の読み方など伝えていく必要がある。	○ 生徒の主体的活動を促すために必要な生徒会活動や学校行事が今年度は大幅に削減され、生徒たちの中にも落胆の声を聞くことが多かった。しかし、この機会をプラスに捉え行事の精選や新しい価値観を考えるタイミングとしていきたい。

3) ボランティア活動等をととして、社会参加の意識を高め、奉仕の心を育む。	③ 部活動への入部率を80%以上とする。	③ 休業期間が長く、新入生の部活動加入が心配されたが、90%を超える生徒が加入した。	B	部活動もよく頑張っている。一つの部が全国大会へ行くなど、何か頑張っていると校内で連鎖し、よりよい活動へとつながっている。そうした指導ができていないことは評価できる。	○ 学校生活のあらゆる機会を捉えて、自他の人権が尊重される社会の実現に寄与できる生徒の育成を目指して、生徒の心に響く授業・行事の実施について継続して取り組んでいきたい。そのために、各種の研修会・講演会等への教職員の積極的な参加を呼びかけたり、参加報告の場を適切に設けることにより、教職員の人権教育に関する意識の高揚に努めたい。
4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し、人権に対する鋭い感性を磨き、常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。	4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ) ③ 「富西人権の日」を月1回実施する。	4) ① 映画鑑賞が中止となり、6回実施した。生徒の89.5%が、学校は人権学習ホームルーム活動を通じて人権意識の高揚に努めている、と回答した。 ② 5回の事前研修会を実施した。人権学習ホームルーム活動の充実につながった。 ③ 計画通り実施した。多様な行事を盛り込むことで、人権意識の高揚に努めた。	A	人権学習ホームルーム活動や「じんけん富西」発行などの本校人権教育について、約90%の生徒や保護者が肯定的に評価していることから、一定の効果をあげていると考えられる。教員の肯定的な回答も98%以上であり、一定の成果があったと思われる。	○ 読書の習慣化に結びつくような広報や行事を考えていきたい。
5) 日常生活の様々な機会をととして、人権が尊重された環境づくりをめざす。	5) 人権に関する作品の作成をととして、人権が尊重された環境について考える。	5) 作品づくりを通して、様々な人権問題を自己の問題として考える契機とすることができた。人権標語ポスターでは県の教育長賞、作文でも市の最優秀賞を受賞するなど、多くの賞を受賞した。	B		○ 従来の台湾海外研修が実現できるようになった後も、オンライン交流を併用するなど、今後の新しい交流手段としての活用を考えてい。
6) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。	6) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	6) 啓発紙「じんけん富西」の発行、富西祭での啓発活動・展示、校外活動への参加などの活動を行うことができた。	B		○ 新しい発想で従来の価値にとらわれない計画を推進していきたい。
7) 読書活動の啓発を行い、読書の習慣化を図る。	7) ① 「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。 ② 年2回読書会を開催する。	7) ① 「ライブラリーニュース」を年9回発行した。 ② 年2回読書会を実施した。図書委員以外の参加もあった。	B	活動は計画通り実施できたが「ライブラリーニュース」の存在が生徒の中で十分行き渡っていないようである。	
8) 国際交流をととして、異文化を理解するとともに、自分の住んでいる地域の良さを再認識し、グローバル人材の育成を図る。	8) ① 言語活動をととして、生徒に他国の文化の違いに関心を持たせる。(1・2年次全クラス1講座以上) ② 海外の高校や大学と交流を行い、自主性、多様性、協働性を養う。	8) ① 中国語講座で学んだことをペーパー活動など実践的な学びへとつなげることにより、関心を高めることができた。 ② オンラインで交流会を4回行い、活動をととして自主性、多様性、協働性を養った。	B	台湾との交流に対する関心は高く、学びの姿勢も意欲的である。さらに充実した活動となるよう工夫していきたい。	
<b>活動計画</b>		<b>活動計画の実施状況</b>			
1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また、必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会、ホームルームリーダー研修会を開催する。		1) ① 4月は休業期間になったため、6月と10月に実施できた。 ② 各2回実施できた。			
2) ① 学校祭を9月実施とし、一般公開する。 ② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ③ 4月と2月で入部率を調査・把握する。		2) ① 感染防止対策のため非公開となった。 ② 例年と異なる形に実施であったためアンケートによる検証はできていない。 ③ 高校総体が中止になったため3年次生の入部率が正確に調査できなかった。			
3) ① ホームルーム活動の時間を利用して清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。		3) ① 校外での活動が実施しにくい現状で、清掃ボランティアをすすめることができなかった。			
4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。 ③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。		4) ① 各年次とも年間6回の人権学習ホームルーム活動を実施することができた。 ② 年次ごとの事前研修会を年間5回実施することができた。さらに、人権学習ホームルーム活動の充実のために、自主的な勉強会を複数回持つことができた。 ③ 人権委員長からのメッセージ、正副担任からのメッセージ等の多彩な行事を実施することができた。			
5) 人権に関する感想文・作文・標語・ポスター・作詞作曲・書道の作品作成に取り組む。		5) ① 様々な人権問題に対して、深い理解と解決への意欲が感じられる作品が多くよせられた。人権標語ポスターでは県の教育長賞、作文でも市の最優秀賞を受賞するなど、多くの賞を受賞した。			
6) ① 人権委員会で「じんけん富西」を作成し発行する。 ② 人権委員会の富西祭での啓発、社会問題研究部の自主研修を支援する。		6) ① 人権教育に関する行事・授業についての人権委員の意見や感想等を取り入れた「じんけん富西」を作成・発行することができた。 ② コロナウィルス感染症予防のため、活動への制限があったが、富西祭での展示による啓発活動の支援を行うことができた。			

	7) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。 ② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。	7) ① 図書委員会で推薦図書や行事案内を入れた「ライブラリーニュース」を作成し、教室に掲示した。 ② 図書委員会で本を選定し、ポスターを掲示して参加を呼びかけた。委員長を中心に読書会を行った。			
	8) ① 中国語の授業を実施し、言語をとおして、交流校に対する興味・関心や、敬意を持たせる。 ② 実際に、海外の高校生との交流を行う。また、生徒個人の理解にとどまらないように発表会や、ポスターなどをとおし、校内外に発信する。	8) ① 中国語講座を実施することで、台湾交流に対する興味関心を高めることができた。 ② オンライン交流会を4回実施した。交流会の様子については、ホームページに掲載し、徳島県総合教育センターでポスター展示をするなど情報発信を行った。			○ 中国語講座については、授業形態や実施内容などより充実したものとなるよう改善していきたい。

## ◎ 4 生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る (進路・情報課, 国際・企画課, SSH課)

重点課題		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標		評価指標と活動計画		評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進	1) ① PTA総会午後の学級懇談、各年次部会、三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。  ② 進路情報誌『道』を発行する。  ③ 生徒対象と保護者対象の2部に分けて各年次で進路講演会を実施する。  ④ 3年次の生徒を対象とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。	1) ① 1・2年次の保護者には高校のガイダンス本や入試の概要がわかる冊子を、3年次の保護者には入試や進路の詳しい情報冊子を配布した。また、ホームルームや教職員個人用に入試や進路に関する情報誌を適宜提供した。  ② 9月に『道』を発行した。9月に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設に実施した。進路ホームルーム活動の生徒の満足度は87.7%(89.9%)、教職員は96.4%(96.2%)と高い。( )は昨年度  ③ 3年次の生徒へは、進学希望者と就職・公務員・一般専門学校進路希望者に分かれて各方面の専門講師先生をお迎えして進路別ガイダンスを行った。保護者対象には年間1回の年次部会を開催し、担任団や進路・情報課から進路情報や入試日程、進路実現までの流れを話す機会を設けた。10月に1年次の生徒・保護者を対象にベネッセの岩城将太氏を、9月に2年次の生徒・保護者を対象に近畿大学入学センター高大連携課の屋木清孝氏を招いて進路講演会を実施した。進路講演会と進路ガイダンスに関して生徒は87.7%(89.6%)、保護者は90.4%(91.9%)と高い満足度を示した。( )は昨年度  ④ 進路対策委員会は各回の目的に応じて年間3回以上開催した。	B	B	国公立大学の合格者を30%以上とする目標達成に向けて、生徒をやる気にさせられている。ブロック大以上の合格者がいないのは残念だが、それはコロナウイルスの影響もあるはずだ。中高等教育の無償化でうまくいっているケースもある。そうした制度を利用し、生徒が受験できるような手立てを考えてほしい。 国公立大学の合格者数が60名近くなのも、先生方にかかっている。進学実績を中学校にもしっかりとアピールして、生徒募集にも活かすべきだ。	○ 全年次で『道』を使った進路ホームルーム活動の特設実施する以外に、年間を通して進路ホームルームを複数回とれるように、進路・情報課での計画と学校行事等との調整を行う。そして進路意識をより高める啓発活動を更に充実させたい。 ○ 希望進路への意識の向上と自己分析を目的として「志望理由書」を2年次3学期に作成させた。最終学年を迎えるにあたり、自分自身の進路をしっかりと考える機会にしていきたい。 ○ 進路講演会は、その年次で伝えたい内容を焦点化し、講師との事前協議を必ず行う。講演の目的を明確にして実施する。同じ講演者であっても内容の充実度と聞き手の満足度が高い講演者には引き続いてお願いしたい。 生徒の進路希望を実現するために細やかな進路指導が必要である。
	(分掌レベル) 1) 生徒の能力、適性に合った進路実現を図るため、きめ細かな指導を行う進路指導体制の充実を図る。	2) ① (1年次) SSH教育課程のもと、1年次はTN-Scopeの時間を利用して、リベラルアーツおよびタスク活動をとおして課題研究に臨みながら地域の課題を見つけ出し、解決方法を見つける力を身につける。 (2年次) TN-scopeの時間を利用して、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 (3年次) 志望理由書を作成し、各自の進路に合わせ小論文・面接練習を年間6テーマ以上実施し、表現力強化を目指す。	2) ① (1年次) 理数科 (Scope Science)、普通科 (Scope Agora) の取組も2年目となった。課題研究の土台となる基礎力を養った。 (2年次) 理数科 (SS) では中間発表会を、普通科 (SA) ではSA発表会をそれぞれ実施した。 (3年次) 各自の進路実現へ向けて、志望理由書作成や小論文・面接練習などに取り組んだ。 満足度は、1年次85.7%、2年次76.0%、3年次86.3%であった。2年次での満足度の低下を分析することにより、さらに充実した取組になると考える。	必要に応じてオンラインでの講義も取り入れながら、各年次における取組を実施することができた。	B		



<p>3) 確かな学力を育成し、第一希望の進路実現を図る。</p>	<p>② 地元企業による講義を設け、仕事とは何か、どのような考えが必要かを考えさせる。</p> <p>3) ① 学力対策講座では青バック（駿台）・Kバック（河合塾）・大進研ファイナル（高予備）を全8日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会に必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。</p> <p>② 卒業時のアンケートで第一希望方向へ進むことができた生徒を80%以上とする。</p> <p>③ 国公立大学の合格数を3年次定員の30%以上とする。</p>	<p>② トップリーダーセミナーを年2回、計17講座開講し、地元企業について学んだ。自分の興味関心と社会貢献とを結びつけて考えることにより、職業観等を考える良い機会となった。</p> <p>3) ① 学力対策講座では大進研（高予備）を3日間で実施した。教養講座では、外部講師を招聘して社会に必要な知識を身につけることのできる講座を開いたり、着こなせセミナーを開催したりするなど社会での即戦力となれる知識技能の習得の時間とした。</p> <p>② 3年次生のアンケート結果により第1志望の進路実現は約47.3(50.5%)。第1志望でないが概ね自分の希望が叶ったところに進学した生徒は45.1(43.0%)である。併せて92.4(93.5%)である。現在の進路未決定者の動向も含めて不本意進路決定者に対するの細やかな進路指導が必要である。( )内は昨年度</p> <p>③ 今年度の国公立大学の合格数は定員の29.9%(25.5%)であった。( )内は昨年度。</p>	<p>地元の企業・事業主・大学等に協力いただき、対面での講義を実施することができた。</p> <p>コロナウイルスの影響で授業時数の確保のため、学力対策講座、教養講座を3日間に縮小した。</p> <p>2月末現在概ね自分の希望がかなったところに進路実現した生徒は92.4%(昨年度93.5%)（一昨年度92.3%）である。現在の進路未決定者の動向も含めて進路希望を実現する細やかな進路指導が必要である。</p>	<p>○ AIの進歩、Society5.0といわれる近未来社会、地域創生、仕事の変化等、急速に社会が変化しており、本校の目指すキャリア教育をSSH事業を活用しながら再構築しなければならない。県南地域での本校の果たすべき役割を考え、行動していきたい。</p> <p>○ 12月に校外模試を受けていないため、学力対策講座を実施せざるをえないが、生徒に負担がかかりすぎる。学力対策講座を縮小し12月実施の校外模試（土曜日実施）を受験させることにより学力を向上させたいと考える。</p>
	<p><b>活動計画</b></p> <p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブック等良質な内容の進学情報誌等を選択し生徒・保護者に提供する。</p> <p>② ・『道』を7月7日に発行する。 ・『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ ・学部系統別進路ガイダンスを7月に実施する。(1・2年次) ・就職・公務員・実技専門学校対象とその他進学する生徒に分かれての進路別講演会を6月に実施する。(3年次)</p> <p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p> <p>2) ① 昨年まで行ってきた、地元企業・大学との連携、地域の様々な活動への参加等をSSH事業のもとで充実させキャリア教育を進める。(1年次) SSH教育課程のTN-Scopeにおいて、課題解決に必要なスキルを身につけ、地域密着型課題研究に向け課題を考える。(2年次) TN-scopeのもと、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。(3年次) 3年次では志望理由書を作成し、各自の進路に合わせ小論文・面接練習を年間6テーマ以上実施し、表現力強化を目指す。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>1) ① 各年次の保護者には予備校（高松予備校、河合塾等）や各社（ベネッセ、マイナビ、リクルート、JSコーポレーション、旺文社、さんぽう等）の情報冊子を配布した。また、生徒個人やホームルーム、教員用に、逆引き辞典・蛍雪時代などの進路情報冊子を履修科目の選択決定や進路実現のための資料として適宜提供した。</p> <p>② ・コロナウイルスの影響で『道』の発刊は9月であった。 ・9月に『道』を使った進路ホームルーム活動の特設に実施し、先輩の軌跡から進路実現に向けての意識を高めることができた。</p> <p>③ ・1・2年次対象の進路ガイダンスはコロナウイルスの影響で実施できなかった。 ・6月25日には3年次の進学希望者に対して河合塾の藤本晃一氏の講演を、就職・公務員・一般専門学校進路希望者には各方面の専門講師をお迎えして進路別ガイダンスを行った。</p> <p>④ 7月に進路志望先検討会、12月に進路志望先研究会、1月に大学入学共通テスト後の出願検討会として年間3回実施した。その他推薦に関する選考会などは複数回実施した。スタディーサポートの結果や模擬試験の集計結果を用いて進路対策委員会に必要な資料を作成するとともに、大学入学共通テスト後の担任作成資料は担任の負担が少ないように内容を改善している。</p> <p>2) ① 昨年まで行ってきた、地元企業・大学との連携、地域の様々な活動への参加等をSSH事業のもとで充実させ、キャリア教育を進めた。(1年次) SSH事業として、NASAコンセンサスゲーム、高大連携授業、スペシャリストアカデミー、データサイエンス講義、NIE教育、トップリーダーセミナー、SDGsワークショップを実施した。(2年次) SSH事業として、高大連携授業、スペシャリストアカデミー、データサイエンス講義、SDGsワークショップ、トップリーダーセミナーを実施した。理数科は中間発表会を普通科はSA発表会を実施し、課題研究の成果を発表した。(3年次) 総合的な学習の時間として、クラスごとでの活動や希望進路別の活動を行った。クラスでは志望理由書や面接資料の作成、希望進路別では集団討論や面接の資料準備等を行った。</p>	<p>B</p>	

		② 「キャリア」への意識を高める講演・講義を行う。	② トップリーダーセミナーを年2回、計17講座開講し、地元企業について学ぶ機会を設けた。		
		3) ① 学力対策講座では青バック(駿台)・Kバック(河合塾)・大進研ファイナル(高予備)を全8日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会に必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。	3) ① 学力対策講座では大進研(高予備)を3日間で実施した。教養講座では、外部講師を招聘して社会に必要な知識を身につけることのできる講座を開いたり、着こなしセミナーを開催したりするなど社会での即戦力となれる知識技能の習得の時間とした。		
		② ・全員の先生方に3年次生の進路指導の協力をお願いする。 ・3年次担当以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。	② ・総合型選抜、学校推薦型選抜にはじまり一般選抜まで、教科指導・口頭試問・小論文・面接・討論等において全職員の先生方に指導の協力を得た。 ・進路情報に関しては、回覧板を使って年次ごとに情報を共有することにつとめた。		

### ◎ 5 環境教育・防災教育を推進する (環境・防災課)

重点課題		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価		
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実  (分掌レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が90%以上とする。 2) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。  ② 防災に関する研修を年3回以上実施する。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒は77%であった。 2) ① 飛散防止フィルムの貼付を含め10日以上活動ができた。  ② 防災訓練を2回実施しその準備や研修、ミーティングを周知徹底した。	B  B	B (評定)  (所見) 教職員は93%が生徒は真面目に清掃に取り組んでいると考えているが、生徒の意識と少し乖離が見られる。  今年度はコロナの影響により多くの活動が制限された中、積極的に活動しようとする生徒の意識の高さが感じられた。	全国アンケートでは、生徒の86%が清掃を真面目にできていると答え、教員は47%だという。本校は、教員より生徒のほうが厳しい評価をしている。教員が認めていても、もっとしなければならぬという意識の高さがうかがえる。こうした生徒の意識を検証して、生徒のやる気を認めて高めてほしい。	○ 日々の清掃のあり方について効果的な監督指導を行うことと、全員が環境整備に携わるという意識を醸成する必要がある。  ○ 来年度も活動費が下りれば、教室の窓ガラスに飛散防止フィルムの貼付を行う。
		活動計画	活動計画の実施状況				
		1) ① 校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取り組むよう徹底する。 ② 環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。 2) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し、転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。  ② 地域の保育園児の避難誘導を、防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。  ③ 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は、高台(校舎の南の山)へ避難することを周知徹底する。	1) ① 環境委員により、しっかり取り組むよう生徒へ周知したが、徹底できていなかった。 ② 環境委員と部活動代表者を集め、ごみの分別の方法と徹底を周知した。 2) ① 飛散防止フィルムの貼付を2月19日に実施した。  ② 本年度は外部との接触を避けるため、2学期の避難訓練において、近隣の保育所の園児達と合同の避難訓練を実施できなかった。 ③ 3密回避のため、地震想定避難訓練において、津波を想定して3・4階に避難する訓練は、口頭および紙面にて周知徹底した。				

### ◎ 6 開かれた学校づくりに努める (教務課, 総務・図書課, SSH課)

重点課題		自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。 III) 「働き方改革」・「学校改善」を推進する。				B (評定)	

<p>(分掌レベル)</p> <p>1) 中学生体験入学、学校公開、地域説明会等を行い、積極的な広報活動を行う。</p> <p>2) ホームページの充実を図る。</p> <p>3) 学校評価と学校関係者評価を実施し、学校改善につなげるとともに教職員の職務状況を把握する。</p> <p>4) PTA役員会、牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。</p>	<p>1) ① 中学生体験入学は、実施内容を改善し、アピール度の向上を図る。参加者は500名以上、参加者の80%以上が肯定的な感想を持つ内容とする。</p> <p>② 学校公開の参加者は50名以上とする。</p> <p>③ 地域説明会は4ヵ所で行い、合計の参加者は200名以上とする。</p> <p>④ 各中学校、年間2回以上訪問を行う。</p> <p>2) ① ホームページの更新を年間で200回以上行う。</p> <p>② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。</p> <p>③ PTA・同窓会のページを充実させる。</p> <p>3) ① 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また、3月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。</p> <p>② ワーク・ライフ・バランスの観点から原則、会議は60分以内、部活動は20時までに終了する。</p> <p>③ 風紀の保持及び規律の確保と風通しの良い職場づくりを推進するため、コンプライアンス啓発・研修を年20回以上、職員との面談を年2回以上行う。</p> <p>4) PTA役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者をを目指す。</p>	<p>1) ① 新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったが、「富岡西高校動画配信サイト」により「Web中学生体験入学」を実施し、学校紹介や部活動、体験授業について動画で配信を行った。中学3年生を中心に約300名が視聴し、96%の肯定的な意見をいただいた。</p> <p>② 上記と同様に、「Web学校公開」により普段の授業の様子や部活動の練習風景を動画で配信し、約100名が視聴した。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症対策のため、実施できなかった。</p> <p>④ 進学説明会として、近隣中学校の14校については少なくとも2回は訪問し、学校の紹介を行った。</p> <p>2) ① ホームページの更新回数は、記事のアップ以外にもメニュー等の更新を含め、1年間で150回以上は更新することができた。</p> <p>② 生徒の活動の様子を学校生活や部活動、SSHの記事等に分かりやすくまとめた。</p> <p>③ PTA、同窓会のページは適宜更新できた。</p> <p>3) ① 学校評価推進委員会を開催した(2回)。また、3月18日には学校評議員を招き学校関係者評価を実施した。</p> <p>② 事前に会議資料配付し、時間短縮に努めた。部活動では予め練習メニューを配布し、効率よく練習できた。</p> <p>③ コンプライアンス啓発・研修を年30回以上、職員との面談を年2回以上実施した。</p> <p>4) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、役員会は、参加を本部役員、各支部長に限定して開催した。役員会も第2回、第3回の議題について合わせて検討を行った。</p>	<p>(所見)</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策のため実施ができなかったが、Webを用いることにより中学生には、富岡西高校のよい印象を与えることができたと思われる。</p> <p>B</p> <p>富西のホームページの更新をできるだけ積極的に行い、広報につながるように努力した。SSHのページでは、地域創生や台湾交流など活動の様子ができるだけ分かりやすく伝わるように、工夫した。</p> <p>B</p> <p>コロナ禍の中、全員出席はできなかったが、忌憚のない貴重なご意見をいただき、参考になった。</p> <p>B</p> <p>例年になく、緊張感を持って職員に周知することが多かった。</p> <p>C</p> <p>各支部の役員選出について新たな取組を検討していたが、現状では難しい。</p>	<p>オンラインでの授業や行事の実施については、このコロナ禍の中評価できる。しかし、次年度以降もこの状況がどうなるかわからないので、情報環境を整っていない家庭への配慮が必要である。</p> <p>経済的に厳しい家庭もあるので、保護者に協力を得て行ってほしい。</p> <p>○ 今後も予想される同様の事態に備えて、富岡西高校のよさが伝わるよう内容を充実させると共に、動画のクオリティを上げる工夫も必要である。</p> <p>○ 他県の高校のホームページなどを参考にしながら、学校の様子がわかりやすく、さらに魅力あるものにしていきたい。</p> <p>○ 令和4年度の学校運営協議会設置に向けて準備をしていきたい。</p> <p>○ 今年度も県内で公務員による不祥事が発生した。より、有効性のある工夫を凝らした研修を行いたい。</p> <p>○ 今年度は中学生体験入学と学校公開について、Webでの実施を行ったが、特に学校公開は例年平日の実施ということで参加者も少ないため、次年度は本校での実施とWebでの実施の二本立てを検討していきたい。</p> <p>○ 会議は大幅な時間延長もなくスムーズに進行できた。</p> <p>常に緊張感を持って取り組んだ。</p> <p>○ 工夫を凝らし、より働き方改革を推進していきたい。</p> <p>○ 来年度も不透明なところが多い。より風通しの良い職場づくりを目指しチーム富西としてより一層、団結をしていきたい。</p>	<p>○ 今後も予想される同様の事態に備えて、富岡西高校のよさが伝わるよう内容を充実させると共に、動画のクオリティを上げる工夫も必要である。</p> <p>○ 他県の高校のホームページなどを参考にしながら、学校の様子がわかりやすく、さらに魅力あるものにしていきたい。</p> <p>○ 令和4年度の学校運営協議会設置に向けて準備をしていきたい。</p> <p>○ 今年度も県内で公務員による不祥事が発生した。より、有効性のある工夫を凝らした研修を行いたい。</p> <p>○ 工夫を凝らし、より働き方改革を推進していきたい。</p> <p>○ 来年度も不透明なところが多い。より風通しの良い職場づくりを目指しチーム富西としてより一層、団結をしていきたい。</p>
<p><b>活動計画</b></p> <p>1) ① 中学生体験入学では在籍生徒を主体的に活用するなど、より魅力的なものになるよう改善する。理数科の課題研究発表会を中学生向けに実施する。</p> <p>② 学校公開を年間1回以上実施する。</p> <p>③ 阿南・羽ノ浦・小松島・美波地区で本校の教育活動等について説明する。</p> <p>④ 勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。</p> <p>2) ① 更新担当者数を増やし、各課ごとで掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立していく。</p> <p>② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し在籍生徒も利用しやすい情報の掲載を目指す。</p> <p>③ 総務・図書課と相談し、保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。</p> <p>3) ① 業務内容の精選と会議前に予め資料を配付し、協議内容を確認したうえで会議に臨む。</p> <p>② 学校全体が一つのチームとしてお互いが助け合う雰囲気となるよう努める。また、公務員としての高い倫理観・責任感を醸成するため、時々啓発に努める。</p>		<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>1) ① Webでの実施となったが、理数科紹介や部活動紹介には生徒が出演し、視聴者にも好評であった。次年度もより一層魅力的な行事になるよう分析、検討したい。</p> <p>② Webでの実施となったが、約100名の方に御視聴いただき好評であった。</p> <p>③ 実施できなかったが、中学校主催の進路説明会で本校の教育活動について説明した。</p> <p>④ 中学校主催の進路説明会に出席し、訪問中学校出身者の進路や本校における学校生活の様子を報告するとともに、本校の概要を説明することができた。</p> <p>2) ① 更新担当者は依然として数名ができる程度であるので、研修などを通してスキルアップに努めたい。</p> <p>② 試験の日程やお知らせプリント等必要なものはPDFファイルにして公開してきたが、各課との密な相談はまだ不十分である。</p> <p>③ 総務・図書課と相談し、保護者・卒業生への発信や同窓会の連絡などは行ってきた。</p> <p>3) ① 会議前に予め資料を配付し、協議内容も精選し、効率よく会議ができ、時間短縮ができた。</p> <p>② 今年度はコロナウイルス感染症防止のため、特に緊張感を持って、物事に取り組み、教員同士の情報共有に努めた。特に、飲酒運転・ハラスメント防止の研修は時間をかけ行った。</p>		<p>今年度は中学生体験入学と学校公開について、Webでの実施を行ったが、特に学校公開は例年平日の実施ということで参加者も少ないため、次年度は本校での実施とWebでの実施の二本立てを検討していきたい。</p>	<p>○ 工夫を凝らし、より働き方改革を推進していきたい。</p> <p>○ 来年度も不透明なところが多い。より風通しの良い職場づくりを目指しチーム富西としてより一層、団結をしていきたい。</p>

	4) ① 役員会の開催については、文書及びホームページで案内する。  ② ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。	4) ① 役員会の開催にあたっては本部役員、各支部長に限定し案内をした。すべての役員には、文書・役員一覧を送付し、役員会の決定をもつての決議を了承いただいた。  ② 牛岐同窓会総会は中止となったため、本部役員のみ実施し、各回期役員には、決定事項について報告を行った。広報活動の一つである、同窓会報誌『牛岐』は、予定通り発行する。		
--	--	--	--	--

## ◎7 SSH事業を推進する (SSH課, 国際・企画課, 進路・情報課)

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画		評価		
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
科学的探究活動から地域社会をイノベーションする人財育成に資するカリキュラムの開発に努める。	(全校レベル) I) グローカルな視点に立ち、科学的思考によって課題を発見する力の育成に努める。  II) 他者との協働による課題を解決する行動力・コミュニケーション力の育成に努める。  III) 未来につながる新しい価値を創造する力の育成に努める。  (分掌レベル) 1) SS, SAや自然科学部活動の充実を図る。  2) 各教科科目において授業改善に努め授業内容の充実を図る。  3) 台湾海外研修を実施して、グローバルな視点の育成を図る。  4) 地域が抱える諸問題への理解とその解決への意欲を高める。  5) 取組について広報活動を充実させる。	1) ① SS・SAでの課題研究の深化のため、構想発表会・中間発表会・最終発表会等を行う。  ② 自然科学部活動を充実させ、各種発表会・科学展などに出席する。  ③ 大学・企業・専門機関等との連携を密にして、スペシャリストアカデミー・トップリーダーセミナーを開催する。	1) ① 予定通りに各発表会を実施できた。生徒にとっては、自らの研究について振り返る機会、研究計画を再考する機会となった。  ② 発表会・科学展が例年通りには開催されなかった。国立新化高級中學(台湾)との交流に参加し、研究内容の発表を行った。  ③ スペシャリストアカデミー、トップリーダーセミナーとも2回開催した。	B	(評定)    (所見) 本年度のSS・SAは一定の制約を受ける中で実施した。「科学的思考力・探究力が向上した」「地域の課題について考える契機となった」との回答は生徒77%、教員85%であった。生徒の充実感が高まるような活動とできるよう工夫していきたい。  SSH事業の中でさまざまな取組がなされていることは評価できる。データサイエンスを学ぶ中で、データの調べ方、そのデータの使い方、それをもとにした議論、議論した内容の表現の仕方など、それらが一つの形になっていれば、大学入試でも有利にはたらくはずだ。 SSHは学校の活性化の一つである。データサイエンスをされている先生のホームページを見ても、わかりやすいし、生徒が生き生きしている。写真などで、活動場面の熱意が伝わってくる。それを大学入試に活かしてほしい。活動記録ノートを活用し、取組が記録となって、以後の活動に反映される。 我々が思う以上に生徒たちは頑張っている。先生方自身が諦めず、生徒を励ましてやってほしい。生徒をやる気にさせれば変わってくるし、それは指導者で違ってくるので、先生方の影響は大きい。今後の教育活動にも期待している。	
		2) ① アクティブラーニング型授業やICTを活用した授業について検討・実践する。  ② 授業改善の取組に資するため公開授業を実施する。	2) ① 授業改善プロジェクトチームを組織し、各教科と連携して授業改善について検討・実践した。  ② 2月12日に公開授業を実施し、全教科について、取組の成果を公開した。	B		
		3) ① 現地の高校生・学生等と交流することにより異文化理解の向上を図る。  ② 現地での意見交換や取り組んでいる課題研究の報告などを通して、日本や地元・本校についての理解の向上を図る。  ③ 英語・中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。	3) ① 台湾海外研修は中止となったが、国立新化高級中學とオンラインでの交流を4回実施した。台湾文化への理解を深めるとともに、自分自身や地域社会等について考える機会となった。  ③ 中国語講座受講やペンパル活動に参加することによりコミュニケーション能力を高める活動を行った。	A		
		4) ① 地域の医療関係機関等が主催する研修会等への参加を積極的に呼びかける。  ② 地元自治体が主催する地域活性化等の協議会等への参加を積極的に呼びかける。	4) ① 参加を予定していた研修会や協議会等の多くが中止・内容変更となったが、地域の医療従事者との交流会や認知症サポーター養成講座・デイサービス講座等に多くに生徒が参加した。	B		
		5) ① 活動の様子や取組の成果などをホームページで公開する。  ② 活動や今後の予定などを周知する広報紙を作成する。	5) ① SS, SAでの取組を中心に活動の様子をその都度ホームページで公開した。  ② 広報紙「TN-SCOPE news」を年間2回発行することができた。	A		
	(活動計画) 1) ① 課題研究に関する年間指導計画を確立させ、研究の深化を図り、校外の発表会・作品展等で発表する。  ② 自然科学部活動を充実させ、研究活動を行い、科学展や発表会に参加する。	(活動計画の実施状況) 1) ① SSH課題研究等研修会に参加して課題研究の在り方について学習した。全国・四国・県のSSH生徒研究発表会で発表した。  ② 国立新化高級中學との交流に自然科学部も参加して、研究内容を発表することにより、今後の研究計画等を再検討できた。				

		<p>③ 課題研究のテーマや研究内容に関わる領域の講師を招いて、スペシャリストアカデミーやトップリーダーセミナーを実施する。</p> <p>2) ① 授業改善等について検討する各教科代表者からなる組織を立ち上げ、検討を進める。</p> <p>② 関係各課・科と連携して、2学期または3学期に公開授業を実施する。</p> <p>3) ① 訪問・研修予定の学校・機関との連携を密に行うことで、交流計画を作成する。</p> <p>② 自らの課題研究の内容や本校の特色、地元自治体の取組などについてまとめる事前研修を行う。</p> <p>③ 本校ALT・英語教員、非常勤講師(中国語)によるコミュニケーション能力向上研修を実施する。</p> <p>4) ① 関係機関等と連携し、医療や福祉に関する活動に参加しようとする意欲を高める。</p> <p>② 地元自治体等と連携し、研修会・協議会等に参加しようとする意欲を高める。</p> <p>5) ① 活動の様子や成果について随時ホームページで公開する。</p> <p>② 近隣中学校や保護者へ活動内容・成果を知らせる広報紙を作成配布する。</p>	<p>③ スペシャリストアカデミー、トップリーダーセミナーをそれぞれ2回開催し、延べ20名の講師の方の講義を受講した。</p> <p>2) ① 授業改善プロジェクトチームを立ち上げ、SSHの目的に迫る単元の洗い出しや、授業改善への取組について検討した。</p> <p>② 2月12日に、各教科での授業改善の取組成果を公開した。参観者からいただいた意見を参考に、今後の取組について協議した。</p> <p>3) ① 台湾海外研修は中止となったが、国立新化高級中學とのオンラインでの交流を実施した。自己紹介・学校や地域の紹介を英語で行う交流を通して、台湾文化への理解を深めるとともに、自分理解や地域社会の一員であることの自覚を深めることができた。</p> <p>③ 中国語講座受講とペンパル活動を通じて中国語・英語のコミュニケーション能力を高め、国立新化高級中學との交流を円滑に行うことができた。</p> <p>4) ① 実施連絡のあった活動について積極的に周知して参加者を募った。各種交流会・研修会に延べ100名を超える生徒が参加した。また、地元の行事に関する提言をまとめて「2020エシカル甲子園」に応募した。</p> <p>5) ① 活動をその都度ホームページで公開するとともに、より分かりやすいものなるようSSHのページを再構築した。</p> <p>② 広報紙「TN-SCOPE news」を2回発行し、阿南市役所・富岡郵便局・富岡公民館に置かせてもらうことで、学校関係者だけでなく地域住民の方々への広報にも努めた。</p>			
--	--	---	--	--	--	--